

---

---

## 日本藻類学会賛助会員

---

---

北海道栽培漁業振興公社 (060 札幌市中央区北3条西7丁目 北海道第二水産ビル4階)

阿寒観光汽船 株式会社 (085-04 北海道阿寒郡阿寒町字阿寒湖畔)

株式会社 シロク商会 (260 千葉市春日 1-12-9-103)

全国海苔貝類漁業協同組合連合会 (108 東京都港区高輪 2-16-5)

有限会社 浜野顕微鏡 (113 東京都文京区本郷 5-25-18)

株式会社ヤクルト本社研究所 (189 東京都国立市谷保 1769)

田崎真珠 株式会社 田崎海洋生物研究所 (779-23 徳島県海部郡日和佐町外ノ牟井)

神協産業 株式会社 (742-15 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品 株式会社 (985 宮城県多賀城市宮内2丁目5番60号)

株式会社 白寿生科学研究所 (351 朝霞市栄町 3-3-7)

---

---

### 編集後記

先の高知大会で川嶋昭二先生に藻類アートを見せていただいた。手札サイズの複写写真だったが、アートにうとい私でも声をあげてしまう作品だった。お願いして口絵として「藻類」に掲載することを承知していただいた。カラー印刷でないのが残念だが、少しでも先生の藻類アートの世界をかいま見ていただければいいと思う。いつか学会の財政が豊かになり、改めてカラーで掲載できるようになることを願っている。

先輩諸氏からうかがってはいたが、編集というのは本当にいろいろなことが起こる。予定されていた原稿が入ってこない、予定外の原稿が飛び込んでくる、新たなフォーマットが必要になるなど。そのほか、著者とのトラブルもある。これはやはりなかなか奥が深い。私には一度わかってしまうとたかをくくってしまう悪癖がある。1号では難問が山積で緊張していたが、なんとか許していただける程度のものでできたとはいこみ、編集やDTPというのはこんなものだと納得してしまう。わかってしまうと飽きてくる。しかし、印刷の経費を削減するための工夫や、投稿論文や記事の評価法の改善など、やはり解決すべき問題が山積している。いくつかについては私の怠慢で編集委員会の議題として滞っている。これからその問題に取り組み、来年の今頃、次の方にバトンタッチするまでにはなんとか軌道に乗せたいと思っている。

インターネットは流行のことばだが、大学、研究機関を除くと、まだまだ浸透していない。しかし、今の「藻類」の編集が確実にこのインターネットに依存する度合いを増しつつあることはお伝えしておきたい。いまでは、電子メールを利用できる会員との間の連絡、原稿のやりとりはこのインターネットを利用しているし、学会・シンポジウム情報、新刊書の欄に掲載している情報の多くは、世界の各地からこのネットを通じて入手している。本号では藻類に関するQ&Aをはじめとりあげたが、質問の受付から解説の依頼、図も含めて原稿の受け取りのほとんどは電子メールで行った。これほど便利な道具とメディアにはかつてお目にかかったことがない。編集委員、学会事務局との連絡ももっぱらこのネットワークに依存している。ただ、1日に数十通のメールが届くので、いくつか重要なメッセージを見落としてしまうことがある。便利なものにも落とし穴がある。ご迷惑をかけた方々にはお詫び申し上げたい。近いうちに藻類に関するインターネットの記事をとり上げたいと思っている。

この号は130ページという、本来の2号分の分量にまで膨らんだ。予算の心配をしつつ、いろいろな記事が寄せられるのは嬉しいような困ったような気分だった。いま版下作成の経費の削減をはかることでなんとか対応すべく努力している。なんとかなると思いつつ、胃が痛くなることもある。和文誌の記事は今後確実に増えていくと思う。企画委員会の活躍に期待するところ大である。 井上 勲 (筑波大・生物)

# 日本藻類学会入会申込書

(コピーしてお使い下さい)

普通・ 学生 19 年度より入会 19 年 月 日 申し込み

氏名 \_\_\_\_\_ 19\_\_年\_\_月\_\_日生

★ Name \_\_\_\_\_  
(Family name) (Given name and initials)

所属機関名 \_\_\_\_\_

★ Institution \_\_\_\_\_

住所 〒 \_\_\_\_\_

★ Institutional Address \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_  
e-mail \_\_\_\_\_

自宅住所 〒 \_\_\_\_\_

★ Address \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

(学生会員の場合) 会誌の送り先  
指導教官の署名  勤務先・ 自宅

★の項目は英語またはローマ字でご記入ください。英文誌の送付に必要です。

(年会費：普通会員 7,000円, 学生会員 5,000円)

会費納入方法  同封  郵便振替

【入会申込書送付先】 〒169 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館分館  
北山太樹 TEL 03-3364-7136; FAX 03-3364-7104

【会費払込先】 郵便振替 口座番号 00180-5-68429 加入者名：日本藻類学会

学会事務局  
使用欄

受付	名簿	発送リスト	入金確認	学会録事
----	----	-------	------	------

海洋環境・藻場造成関係者必携の書!!

# 図鑑 海藻の生態と藻礁

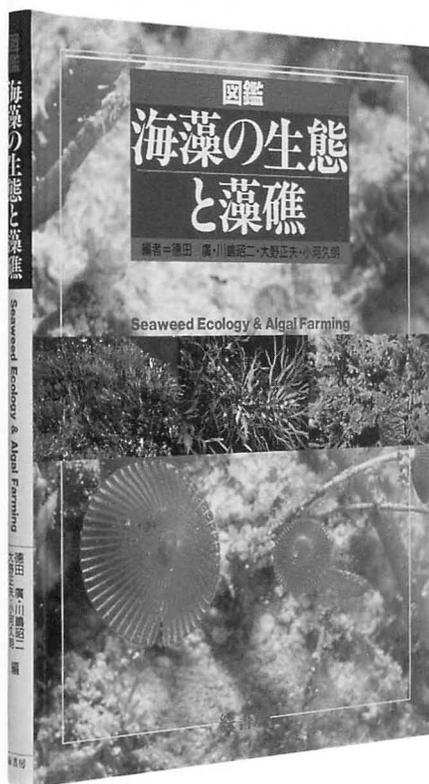
編者 = 徳田 廣・川嶋昭二・大野正夫・小河久朗

本書は、天然の海で海藻がどのような姿で生えているのかをつぶさに見てとることの出来る海藻生態図鑑であると同時に、人為的に投入した藻礁に如何にして海藻を生やすか、を紹介した世界に例のない図鑑でもある。

生態編では、緑藻42種、褐藻72種、紅藻80種、海草6種の総計200種をオールカラーで紹介。藻礁編では、藻礁、すなわち藻場造成用人工礁の構造や沈設位置を図示し、海中での藻礁上の海藻の生育状態、あるいは動物の蜆集状態を経時的に撮影した82点に及ぶカラー写真で示した。

藻場造成にかかわる方々はもちろんのこと、海洋環境の保全に意欲と関心をお持ちの一般の方々にも、本書は幅広く受け入れられるであろう。

■B5判 上製 総ページ 198p  
カラーページ 179p  
定価 14800円(税込/送サービス)



英語版も完成!

— A Photographic Guide —

Seaweeds  
of Japan

定価15,000円(税込/送サービス)

藻類のライフストーリーをオリジナルの線図に解説をつけ見開きで示す!

# 藻類の生活史集成 全3巻 堀 輝三編 (送料各巻450円)

第1巻 緑色藻類 (185種)	B5判・450頁・定価8240円	94年2月 全巻揃う
第2巻 褐藻・紅藻類 (171種)	B5判・424頁・定価8240円	
第3巻 単細胞・鞭毛藻類 (146種)	B5判・372頁・定価7210円	

藻類の研究者115名が自らの研究成果と資料をもとに執筆に当たり、現時点で明らかになっている藻(502種)の生活史・生活環を線図で集大成した初めての本。

本書の構成は、図を左頁に対面する頁に和英の解説文をつけて、2ページを1単位として組み立ててある。執筆者によるオリジナルの線図は、藻類のライフサイクルを一見して理解させそれに簡明な解説を付す。さらに教育的配慮から多くの種について分布図を、そして各巻ごとに同義語を、各巻の巻末に学名総索引・和名索引を収録して読者が使いやすいよう工夫した。藻類を専門とする研究者や中学・高校の生物の先生、水に関連する研究所や企業の方々を初め、藻類に興味をもつ人々にとって、長い間出版が望まれていた本である。

刊行は9月に第2巻を:11月に第3巻を:94年2月に第1巻を刊行し完結。[呈内容案内]

——新刊刊行のお知らせ——

## 写真で見る種の同定と分類!

### 淡水藻類写真集 第13巻

第1期10巻に続き今秋から年2~3冊を刊行して10巻(1000種)を目標とする。これにより2000種となり利用価値も高まる。(14巻3月末刊行)

既刊 第1期10冊1・2巻 定価4120円/3~10巻 定価5150円 (各380円)

山岸高旺・秋山 優編  
B5判・100シート 定価7210円  
製本様式を下記のようにいたしました。  
2穴・並製箱入り 各380円

## 藻類の生態

秋山 優・有賀祐勝 共編 A5判(上製函入) 640頁  
坂本 充・横浜康継 定価13,184円(各450円)

## 日本淡水藻図鑑

廣瀬弘幸・山岸高旺編 日本ではじめて創られた本格的な図鑑。淡水藻類の研究者や水に関係する方々にとっては貴重な文献である。

定価39140円

## 植物組織学

猪野俊平著 植物組織学の定義・内容・発達史から研究方法を幅広く詳述した唯一の書。

定価18540円

## 藻類学総説

廣瀬弘幸著 藻類の分類と形態を重点に置いて、克明な図により丁寧に解説する。 定価10300円

## ナマコとウニ

——民謡と酒のさかなの話——

大島廣著 定価1009円

## 水の環境科学

鈴木静夫著 公害防止から環境保全へと時代が変わり本書は水の環境の現実を解説する。

定価2472円

## 生物学史展望

井上清恒著 五千年にわたる生物学の流れを時代の経緯と共に語る。

定価5974円

内田老鶴圃

〒112 東京都文京区大塚 3-34-3  
電話(03)3945-6781 FAX(03)3945-6782

(価格は税込)

## 学 会 出 版 物

下記の出版物をご希望の方に頒布いたしますので、学会事務局までお申し込み下さい。(価格は送料を含む)

1. 「藻類」バックナンバー 価格、会員各号 1,750円、非会員 3,000円、30巻号(創立30周年記念増大号、1-30巻索引付き)のみ会員 5,000円、非会員 7,000円、欠号 1-2巻、4巻 1,3号、5巻 1,2号、6-9巻全号。
2. 「藻類」索引 1-10巻、価格 会員 1,500円、非会員 2,000円、11-20巻、会員 2,000円、非会員 3,000円、創立30周年記念「藻類」索引、1-30巻、会員 3,000円、非会員 4,000円。
3. 山田幸男先生追悼号 藻類 25巻増補。1977. A5版、xxviii+418頁。山田先生の遺影、経歴・業績一覧・追悼文及び内外の藻類学者より寄稿された論文 50編(英文 26、和文 24)を掲載、価格 7,000円。
4. 日米科学セミナー記録 Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編。1972. B5版。xiv+280頁、6図版。昭和46年8月に札幌で行われた北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で、20編の研究報告(英文)を掲載。価格 4,000円。
5. 北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究 1977. B5版、65頁。昭和49年9月に札幌で行われた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録。4論文と討論の要旨。価格 1,000円。

1995年7月5日印刷

1995年7月10日発行

© 1995 Japanese Society of Phycology

日 本 藻 類 学 会

禁 転 載  
不 許 複 製

Printed by Alles Ltd.

編集兼発行者 井 上 勲

〒305 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学生物科学系

Tel. 0298-53-6655

Fax. 0298-53-6614

email. iinouye@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

印刷所

(有) ア レ ス

〒305 つくば市竹園 2-11-16

Tel. 0298-53-8188 (代)

Fax. 0298-53-8177

発行所

日 本 藻 類 学 会

〒060 札幌市北区北 10 条西 8 丁目

北海道大学理学研究科生物科学専攻  
系統進化学講座

Tel. 011-706-2745

Fax. 011-746-1512

本誌の出版費の一部は文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」による。

Publication of The Japanese Journal of Phycology has been supported in part by a Grant-in-Aid for Publication of Scientific Research Result from the Ministry of Education, Science and Culture, Japan.

## 藻類

The Japanese Journal of Phycology (Sôrui)

第43巻 第2号 1995年7月10日

## 目次

日本藻類学会 1995 年度秋季シンポジウム・第2回海苔シンポジウム案内

日本藻類学会第20回大会(船橋1996.3)第1回案内

口 絵 川嶋昭二:藻類アート *Kjellmaniella crassifolia* Miyabe ガゴメ

山本民次・吉津祐子・樽谷賢治:三河湾産有毒渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> の増殖に 及ぼす水温,塩分及び光強度の影響	91
阿知波英明・伏屋満:スサビノリの3または4細胞の融合で形成されたプロトプラストの 成長,生存および再生体の形態の変化について	99
総説・解説	
野崎久義:"卍型"の前端パピラをもつ <i>Carteria</i> (緑藻,オオヒゲマワリ目)の 有性生殖と分類・系統	103
吉田忠生・吉永一男・中嶋 泰:日本産海藻目録(1995年改訂版)	115
追悼文	
金網善恭・坂東忠司:平野 實先生のご逝去を悼む	173
梅崎 勇・今野 郁:植物の研究に心血を注いだ野田光蔵先生	175
第19回大会関連記事	
大野正夫:日本藻類学会第19回大会(高知)を振り返って	177
大谷修司:四万十川エクスカージョン報告 一青のり養殖場見学	178
古川隆博:第1回藻類学春季ワークショップ参加記	180
藻類Q&A	
植田邦彦:分子系統学の基本的方法論	182
渡辺 信:藍藻が生産する有害物質	184
書評・新刊/新刊書・近刊書	
山岸高旺:中国の淡水藻類関係図書の紹介	186
新刊書・近刊書リスト	187
正置富太郎: Akatsuka, I. (ed.): Biology of economic algae.	188
学会・シンポジウム情報	189
企画委員会より	191
企画委員会からのお願い・藻類絵はがき 1995 年度版	192
日本産海藻目録(1995年改訂版)のフロッピーディスクの配布	193
フォトCD版藻類写真集の販売	193
英文誌 43 巻 2 号掲載論文和文要旨	194
英文誌 投稿規定と投稿時の注意点について	196
学会録事	199
事務局より 植物分類学関連学会と自然史学会連合への参加について	210
日本学術会議だより No.36	211